

# 第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず「企画シート作成上の注意」をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

| 大学名（フリガナ）  | 学部名（フリガナ） | 所属ゼミナール名（フリガナ） |
|------------|-----------|----------------|
| チュウキョウダイガク | ケイザイガクブ   | ヨシノゼミ          |
| 中京大学       | 経済学部      | 吉野ゼミ           |

| チーム名（フリガナ） | 代表者名（フリガナ） | チーム人数（代表者含む） |
|------------|------------|--------------|
| リモコンテンコモリ  | アンドウレイナ    | 5 人          |
| リモコンテンコモリ  | 安藤怜奈       |              |

## 研究テーマ（発表タイトル）

大学生から始めるキャッシュレス決済

## 1. 研究概要（目的・狙いなど）

本研究では、大学生がキャッシュレス決済に関してどのような認識を持ち、どのくらいの頻度で利用しているかを明らかにする。そして、現状よりも大学生がキャッシュレス決済の利用率をあげるには、どのような方法が有効かを提案するのが目的である。

世界と比べて現在の日本はキャッシュレス決済利用率がかなり低い。政府・企業・消費者のどの立場にとってもキャッシュレス決済を取り入れるメリットが多くある。

政府にとってのメリットは、2020 年の東京オリンピックと 2025 年の大阪万博の成功やインバウンドの拡大に繋がるということだ。経済産業省は 2025 年までに、日本のキャッシュレス決済率を 40%にするという目標を掲げた「キャッシュレス・ビジョン」を、2018 年 4 月に発表した。

企業にとってのメリットは、お会計時の時間短縮による回転率の上昇や、金銭授受のトラブル回避ができることがあげられることだ。キャッシュレス化を促進して現金払いをかなり減らすことができれば、現金の盗難防止にもなる。また、レジ締めの際のレジ金を数えるという作業を省けるため、人件費削減にも繋がる。

消費者にとってのメリットは、キャッシュレス決済をほとんどの支払いに用いることができれば、多くの現金を持ち歩く必要性がなくなるため身軽になることである。たとえば、平日の人が集中するランチ時のお会計がスムーズになればお会計待ちにおけるストレスを軽減できる。他にもキャッシュレス決済は、現在ポイント還元など現金払いよりも確実にメリットが多いため、賢く利用していく方がよい。

第 5 4 回学生生活実態調査の概要報告によると大学生の約 7 割がアルバイトをしており、アルバイト収入の平均は実家暮らしの学生が 40,920 円、下宿生が 31,670 円である。大学生のうちからキャッシュレス決済を積極的に利用していくことで、習慣的に使うようになり、結果日本全体のキャッシュレス決済率も上がると考える。そこで、私たちは大学生の決済方法の現状調査を行い、どのようにしたら大学生のキャッシュレス決済の利用率を上げられるのかということを提案したい。

## 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

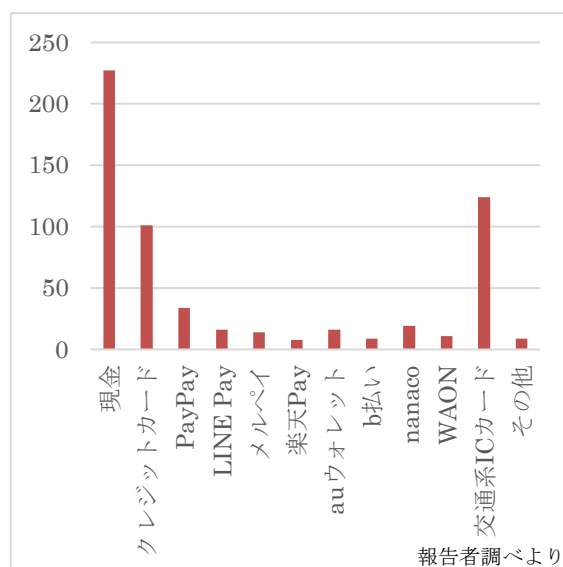
世界各国のキャッシュレス決済率について見てみると、日本の近隣の国の韓国は現在 96.4%である。1997 年の通貨危機後、経済縮小への対策としてクレジットカードが振興した。韓国はクレジットカードを使用する特典として、利用額に応じたキャッシュバックや領収書に宝くじをつけるなどしている。中国のキャッシュレス決済率は 98%である。パソコンの時代を飛び越えてスマホが

普及したため、アプリを用いた QR 決済が中心である。

一方、日本は 19.8%とかなり低い数値にとどまっている。BIGLOBE の調査によると、国内でのキャッシュレス決済利用者の大半はクレジットカードを利用しており、若い年代ほどキャッシュレス利用率が低い。日本国内でキャッシュレス化が進まない理由として、現金の信頼度が高いことや銀行や ATM の金融インフラが整っていることや、キャッシュレス決済に対応していない店が多いことなどがあげられる。

私たちは、中京大生にお金の使い方に関する学内アンケートを行った。アンケート総数 251 人、有効回答数は 232 人、アンケート項目は 7 つ用意した。支払い時に現金で支払うことがあると答えた人が 227 人とほぼ 100%いるのに対して、キャッシュレス決済を利用することがある人は全体的に少なく、クレジットカードは 101 人、交通系 IC カード 124 人が利用すると答えた。

クレジットカードは、通販での買い物をする際の手数料が無料であり、コンビニまでお金を支払いに行く必要もなくなるため手間が省ける。また、大きな買い物をするときも現金を持ち運ぶ必要がなくなるなどの魅力があるようだ。しかし利用率が半数程度にとどまる理由は、お金を支払っている感覚が薄いため使いすぎてしまうと心配に思う人が多いからだろう。また、使用履歴が残るのが後日になるということから、自分の使った金額を管理しにくいというデメリットからも利用率の低さの要因であると考えられる。



交通系 IC カードは、電車通学の人にとってはとても便利なカードである。通学する際には常に持ち歩くため、お金さえチャージしておけば駅のホームにある自販機やコンビニの買い物など多数のお店でも利用できる。しかし、このカードのデメリットとしてはキャッシュレス決済の特徴であるポイント還元が、運賃の支払い以外では付与されないことがほとんどである。そのため消費者にとって支払いがスムーズであるというメリットしかなく、お得感はないと感じてしまうのではないかと考える。

### 3. 研究テーマの課題

アンケートの結果、大学生のクレジットカードの所持率も約半数ほどはあるが、利用頻度は決して高くない。クレジットカードに関しては、後払いのため「使いすぎてしまう心配がある」との声もある。そのため、使いすぎないようにするための対策はどのようなものがあるか、またはどうすれば収入の多くない大学生がキャッシュレス決済を気軽に取り入れられるかが課題である。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

大学生が、キャッシュレス決済を気軽に取り入れられるかという課題への解決策は、学生証と一体型の大学独自のプリペイドカードを導入することだ。プリペイドカードは学生証と一体型にすることにより、大半の大学生が常に持ち歩くため、使用頻度も上がりやすいと考える。というのは、学生証は身分証明になるのはもちろん、学内では図書館や体育館に入るときに使用するからである。

現在、中京大学では生協のプリペイドカード(CP カード)があるが、それは大学の中でも生協が運営している 3 箇所のお店でしか利用できない。CP カードのデメリットは、学内でも生協が運営しているお店以外では利用できないところだ。中京大学内には他にコンビニが 2 箇所、学食が 4 箇所あるがお昼時にはいつも長い行列が出来ている。学生証一体型プリペイドカードを多くの人が利用して買い物をするようになれば、行列は現在よりも改善され多くの学生がストレスを感じることなく有意義なお昼の時間を過ごすことができる。

ではなぜ、プリペイドカードなのか。クレジットカードではダメなのか。大学が、カード会社と提携してクレジットカードを発行している会社もある。しかし、クレジットカードを作るには口座開設が必要となり手間がかかる。また、そもそも大学生のクレジットカード利用率は低く、交通系 IC カードは電車通学で持っている人が多いのもあるが、チャージ型の支払い方法の方が収入の多くはない大学生にとっては都合がいい。そのため現金をチャージするだけで、誰でも使えるプリペイドカードの機能を持つ学生証を作ることを考えた。

このような事例がないかリサーチしたところ、近畿大学でプリペイド機能付き学生証が発行されていることが分かった。これは visa の加盟店で使えるようになっているため、基本的にクレジットカードでの支払いが可能なお店では利用することができる。しかし、近畿大学が採用しているカードでは、学内にあるチャージ機か三井住友カード発行のクレジットカードでのチャージの場合以外手数料

料がかかることが問題点だと考える。チャージするたびに手数料がかかっているのは ATM で手数料を払って現金を下ろすのとさほど変わりはない。

その問題点を解決してくれるのが、「Kyash Visa カード」である。このカードは近畿大学のもと同じように Visa 加盟店で利用でき、全てのチャージ方法の手数料が無料である。また、決済するとリアルタイムにスマホに通知が届いて履歴に反映されるため、お金を使ったという感覚になりやすくお金の使いすぎの防止にもつながる。Kyash Visa カードと学生証を一体化させることができれば近畿大学のものよりもさらによくなると考える。

## 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

アンケート調査（中京大学 都市経済学の講義にて 2019 年 10 月 8 日）

## 6. 結果や今後の取り組み

現在多くの大学生は、キャッシュレス決済を十分に理解しておらず、キャッシュレスに不信感を感じている人も多い。しかし多くのメリットがあるため、キャッシュレス決済を取り入れていくことが賢明だ。学生証と一体型のプリペイドカードを発行することで、学生がキャッシュレス決済の利用率は上がっていくと考える。キャッシュレス決済を実際に利用することで、理解も深まり身近なものにできると考える。

しかし調査を進めていくうちに、キャッシュレス決済を利用できる場所が少ないという課題が浮上した。実際に中京大学内で見ると、2 箇所の学食は現金のみの券売機が設置しており、昼時限定のお弁当を販売も現金決済しか取り扱いがない。また、大学内の自販機はキャッシュレス決済未対応だ。これらの課題解決に向けての研究が必要だ。

## 7. 参考文献

みずほ情報総研（アクセス日付 2019 年 7 月 23 日）

<https://www.mizuho-ir.co.jp/publication/column/2019/0319.html>

一般社団法人キャッシュレス推進協議会（アクセス日付 2019 年 7 月 23 日）

[https://www.paymentsjapan.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/04/Cashless\\_Roadmap\\_2019.pdf](https://www.paymentsjapan.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/04/Cashless_Roadmap_2019.pdf)

経済産業省（アクセス日付 2019 年 10 月 11 日）

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/senmon/dai14/siryou2-1.pdf>

日本貿易振興機構（ジェトロ）（アクセス日付 2019 年 10 月 15 日）

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2019/f779423f2b5d1555.html>

近畿大学（アクセス日付 2019 年 10 月 17 日）

<https://www.kindai.ac.jp/files/campus-life/guide/identification-card.pdf>

BIGLOBE（アクセス日付 2019 年 10 月 20 日）

<https://www.biglobe.co.jp/pressroom/2019/04/190408-1>

TYUKYO TV NEWS（アクセス日付 2019 年 10 月 20 日）

<https://www2.ctv.co.jp/news/2018/12/12/33876/>

全国大学生活協同組合連合会（アクセス日付 11 月 8 日）

<https://www.univcoop.or.jp/.press/life/report.html>

Kyash（アクセス日付 11 月 8 日）

<https://kyash.co/>

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

●発表時に使用する成果物（例. 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

## 学内アンケート

**【企画シート作成上の注意】 ※「第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。**

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

---

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください↑